

展示作品リスト

番号	指定	名称	出土地	時代・世紀	所蔵番号（寄贈）
1		埴輪 鍬を担ぐ男子	群馬県伊勢崎市 赤堀村 104号墳出土	古墳時代・6世紀	J-22675
2		埴輪 笑う男子	群馬県伊勢崎市 赤堀村 104号墳出土	古墳時代・6世紀	J-22677
3		犬形埴輪	群馬県伊勢崎市 剛志天神山古墳出土	古墳時代・6世紀	J-20711
4	◎	猪形埴輪	群馬県伊勢崎市 剛志天神山古墳出土	古墳時代・6世紀	J-36889
5		肩底付冑形埴輪	宮崎県西都市 西都原 169号墳出土	古墳時代・5世紀	J-34666
6		水鳥形埴輪	大阪府羽曳野市 伝応神陵古墳出土	古墳時代・5世紀	J-6480
7	◎	家形埴輪	奈良県桜井市外山出土	古墳時代・5世紀	J-9311
8		軀形埴輪	群馬県伊勢崎市 恵下古墳出土	古墳時代・6世紀	J-20285
9	◎	埴輪 短甲の武人	埼玉県熊谷市上中条出土	古墳時代・6世紀	J-37057
10		鍔付楕円筒形土製品	大阪府枚方市 白雉塚古墳出土	古墳時代・6世紀	J-7352-1 (岡田啓次郎氏他 4名寄贈)
11		鍔付楕円筒形土製品	愛知県名古屋市 金児谿古墳出土	古墳時代・6世紀	J-8578 (加藤秋壽氏寄贈)
12		鶏形埴輪	栃木県真岡市 鶏塚古墳出土	古墳時代・6世紀	J-22908 (橋本庄三郎氏他 3名寄贈)
13		鶏形埴輪	栃木県真岡市 鶏塚古墳出土	古墳時代・6世紀	J-22914 (橋本庄三郎氏他 3名寄贈)
14		鶏形埴輪	群馬県太田市鶴生田町出土	古墳時代・6世紀	J-5015 (天笠榮太郎氏・茂木慶三郎氏・ 天笠源五郎氏・佐野丑平氏寄贈)
15		水鳥形埴輪	大阪府羽曳野市 伝応神陵古墳出土	古墳時代・5世紀	J-6486
16		水鳥形埴輪	大阪府羽曳野市 伝応神陵古墳出土	古墳時代・5世紀	J-6488
17		埴輪 切妻造家（祭殿）	宮崎県西都市 西都原古墳群出土	古墳時代・5世紀	J-34662
18	◎	船形埴輪	宮崎県西都市 西都原古墳群出土	古墳時代・5世紀	J-21498
19		短甲形埴輪	群馬県藤岡市 白石稻荷山古墳出土	古墳時代・5世紀	J-22046
20		埴輪 胡座の男子	栃木県真岡市亀山出土	古墳時代・6世紀	J-21575
21		埴輪 帽子を被る男子	栃木県真岡市亀山出土	古墳時代・6世紀	J-21576
22		埴輪 右手に棒を握る女子	栃木県真岡市亀山出土	古墳時代・6世紀	J-21577
23	◎	埴輪残片	大阪府和泉市 和泉黄金塚古墳出土	古墳時代・4～5世紀	J-36931-67
24	●	鞍形埴輪残片	奈良県天理市 東大寺山古墳出土	古墳時代・4世紀	J-39182-1
25	●	鞍形埴輪残片	奈良県天理市 東大寺山古墳出土	古墳時代・4世紀	J-39182-2
26	◎	円筒埴輪残欠	東京都世田谷区 野毛大塚古墳出土	古墳時代・5世紀	J-2505

●：国宝 ◎：重要文化財



つぎの50年も
楽しみだほ



トーハクくん



創立150年記念特集
コレクションの探求

はにわ展から 50年

Exploring the TNM Collection of Ancient Tomb Sculptures
50 Years Since the *Haniwa* Exhibition

令和5年(2023)2月28日(火)～4月9日(日)
東京国立博物館 平成館企画展示室

昭和48年(1973)、特別展観「はにわ」が東京国立博物館（以下、東博）で開催されました。本特集は、その「はにわ」展で出品された埴輪を中心に、「はにわ」展以降50年間、東博で行なわれてきた、調査・研究や保存・修復などを多角的な視点から振り返ります。

The special exhibition *Haniwa* was held at the Tokyo National Museum in 1973. This thematic exhibition presents a broad overview of the research, conservation and restoration work carried out at TNM in the 50 years since *Haniwa*. It does so mainly through *haniwa* tomb sculptures exhibited at the 1973 exhibition.

9 ◎埴輪 短甲の武人 Tomb Sculpture (*Haniwa*): Warrior in *Tankō* Armor
50年前の「はにわ」展で図録の表紙を飾った埴輪です。



創立150年記念特集 コレクションの探求 はにわ展から50年

令和5年(2023)2月28日発行

執筆：河野正訓、山本亮 撮影：藤瀬雄輔、宮田将寛（以上、東京国立博物館）ほか

翻訳：君波妙子（東京国立博物館）、ダニエル・モラン

デザイン・制作・印刷：精興社 編集・発行：東京国立博物館

©2023東京国立博物館 Tokyo National Museum

調査・研究

出土古墳の特定 ―― 50年の間でわかった名前

東博が所蔵する埴輪の大半は、明治から昭和初期に出土したものです。出土した古墳の情報が充分伝わっていないことが多く、その場合、出土した所在地の地名のみが台帳に記載されていました。群馬県にある赤堀村104号墳の出土品も、50年前は出土所在地の地名の記載があるだけでしたが、近年の調査・研究の進展により、具体的な古墳名を特定することができました。



1 埴輪 鍬を担ぐ男子
Tomb Sculpture (Haniwa): Man Carrying a Hoe



参考 埴輪 帽子を被る男子
古墳時代・6世紀
群馬県伊勢崎市 赤堀村104号墳出土
(胴部は伊勢崎市教育委員会所蔵)

昭和7年（1932）に発見され、赤堀村大字下触字石山55から出土したと伝わる「埴輪 帽子を被る男子」の頭部（J-21463）は、精査した結果、平成27～28年（2015～16）に赤堀村104号墳から発掘された胴部と接合したことで、一つの埴輪であったことが明らかになりました。そのことから「埴輪 帽子を被る男子」の頭部と同じ出土地の記載があったNo.1の埴輪も、赤堀村104号墳の出土品であることがわかりました。

X線CT ―― 埴輪の内部を見る

医療現場で使われているX（エックス）線CTは、文化財の内部構造を知るためにも活用されています。その画像は、肉眼では見ることができない埴輪の内部や断面を可視化してくれます。埴輪の制作技法を把握するためや、亀裂を見つけることで埴輪の取り扱い方法や修理方針を決める判断材料となっています。



8 埴輪 鍬を担ぐ男子
Tomb Sculpture (Haniwa): Archer's Wrist Protector

X線CT画像に写った断面は埴輪の制作手順を復元する手立てとなります。内面を見ると、指でなでつけた痕跡などを知ることができます。



7 ◎家形埴輪の三次元画像
3D Image of Tomb Sculpture (Haniwa): House

三次元計測 ―― 立体情報を得る

三次元計測とは縦、横、高さの立体を計測する方法です。その三次元情報を取得することにより、パソコンなどの画面上でさまざまな角度から見るできるようになります。また、三次元プリンタで打ち出すことで、作品に対し非接触かつ安全な方法で、レプリカ（複製）の石膏型を制作できます。これは埴輪をはじめ、いろいろな文化財に活用されています。このほかVR（バーチャルリアリティ）による埴輪の鑑賞など、新たな展示手法としても三次元計測は注目されています。

保存・修復

東博が所蔵する埴輪は、大正から昭和初期にかけて修理されたものが多く、石膏の劣化などによって、崩壊する危険があります。そのため、埴輪の解体を含む大がかりな本格修理を行ない、展示で活用できるようにしています。このことはさらに、これらの埴輪を次世代に継承することにもつながります。No.18の船形埴輪は近年修理を終えました。



18 ◎船形埴輪
Tomb Sculpture (Haniwa): Boat

美術と埴輪 ―― 東京国立博物館と版画家の斎藤清

埴輪は考古学のイメージが強い一方で、美術の観点からも注目されています。日本現代版画を代表する版画家である斎藤清（1907～97）は、昭和22年（1947）9月に創刊した『国立博物館ニュース』に題字や挿図を描いていました。その縁で東博が所蔵する埴輪の数々を間近に見て、埴輪をモチーフとする作品も制作しました。



20 埴輪 胡座の男子
Tomb Sculpture (Haniwa): Man Sitting Cross-Legged

斎藤清は、No.20、21の埴輪をモチーフとして、昭和28年（1953）に二曲一隻の屏風絵を制作し、第2回日本国際美術展に出品しています。



21 埴輪 帽子を被る男子
Tomb Sculpture (Haniwa): Man Wearing a Cap



修理のために解体した船形埴輪
Tomb Sculpture (Haniwa): Boat Disassembled for Conservation

劣化した石膏や接着剤を取り除く前の、解体作業中の写真です。解体したあとにクリーニングをして、あらためて接合関係を検討したうえで復元をします。欠けている部分には新しく石膏や樹脂などを補って、補彩しました。



参考
『国立博物館ニュース』創刊号（部分）
斎藤清のデザインによる題字は、創刊号から平成13年（2001）3月発行の第646号まで使われました。

国宝・重要文化財の埴輪 ―― 新たに指定された埴輪

東博では国宝や重要文化財に指定された埴輪を多数所蔵しています。昭和47年（1972）に重要文化財に指定された、大阪府和泉黄金塚古墳出土品には、埴輪も含まれます。昭和49年（1974）には「埴輪 挂甲の武人」が国宝に指定されました。近年では平成28年（2016）に東京都野毛大塚古墳出土品が重要文化財に、平成29年（2017）に奈良県東大寺山古墳出土品が国宝に指定されました。



24, 25 ◎靱形埴輪残片
Fragments of a Quiver-Shaped Tomb Sculpture (Haniwa)



靱とは矢を入れる道具です。東大寺山古墳の副葬品一括が国宝になる際に、附として指定されました。埴輪としては2番目の国宝となりました。